

One / フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド

Blue chip

(成長型 / 隔月決算・予想分配金提示型 / 毎月決算・予想分配金提示型)

追加型投信 / 内外 / 株式

平素は、「One / フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(成長型 / 隔月決算・予想分配金提示型 / 毎月決算・予想分配金提示型)」(以下、「各ファンド」という場合があります。)をご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

当資料では、2026年の見通しと各ファンドの運用状況についてご報告いたします。

2026年の米国経済は総じて堅調な見通し AIを効果的に活用する企業に注目

2026年の米国経済と個人消費

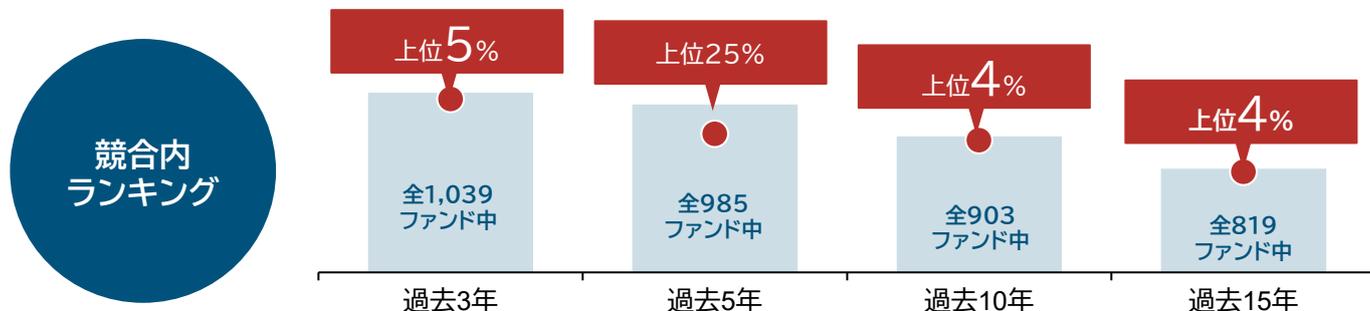
- 米国経済と個人消費は総じて堅調に推移しており、GDP成長率や既存店売上高の伸びも健全な水準にあります。
- 低所得層の支出は弱めですが、トランプ政権による減税策(OBBB法案)のほか、金利の落ち着きにより、2026年には持ち直す見通しです。
- 失業率はやや上昇しており、企業の採用活動も慎重になる可能性があるため、経済全体への影響には引き続き注意が必要です。

AI(人工知能)分野の見通し

- 2025年に大きく進化したAIモデルの精度・安全性は2026年も向上が続き、企業での活用がさらに広がると考えています。
- AIインフラ構築に向けた設備投資は2026年も増加する見通しです。主要クラウドサービス企業(グーグル、マイクロソフト、アマゾン)による投資の効果が期待されます。
- 各ファンドは、業種を問わずAIを効果的に活用し、競争優位性を高める企業に引き続き注目しています。

各運用期間における優れた運用実績

- フィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンド(以下、類似運用戦略)のパフォーマンスは、米国大型成長株式戦略のユニバースにおいて高い実績を誇ります。中長期の各運用期間において、競合内で上位の成績を収めており、フィデリティを代表するグロース戦略として高く評価されています。



※米国大型成長株式分類、2026年1月末時点。※分類内パーセンタイル順位は、分類内対象商品数を全体で100%とした場合の順位。
出所:モーニングスター・ダイレクトのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

上記は、One / フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(各ファンド)の類似運用戦略であるフィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンドのパフォーマンスを表しています。各ファンドの運用実績ではありません。また、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

※上記は過去の情報または一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

運用
状況

2025年10-12月期の運用状況

2025年は4月安値から年末にかけて約68%上昇

2025年10-12月期のフィデリティ・ブルーチップ・グロース・マザーファンド*は年末にかけて8.7%上昇しました。2025年4月のトランプ政権による追加関税発表後に最安値となった4月9日から12月30日までの上昇率は67.9%となりました。

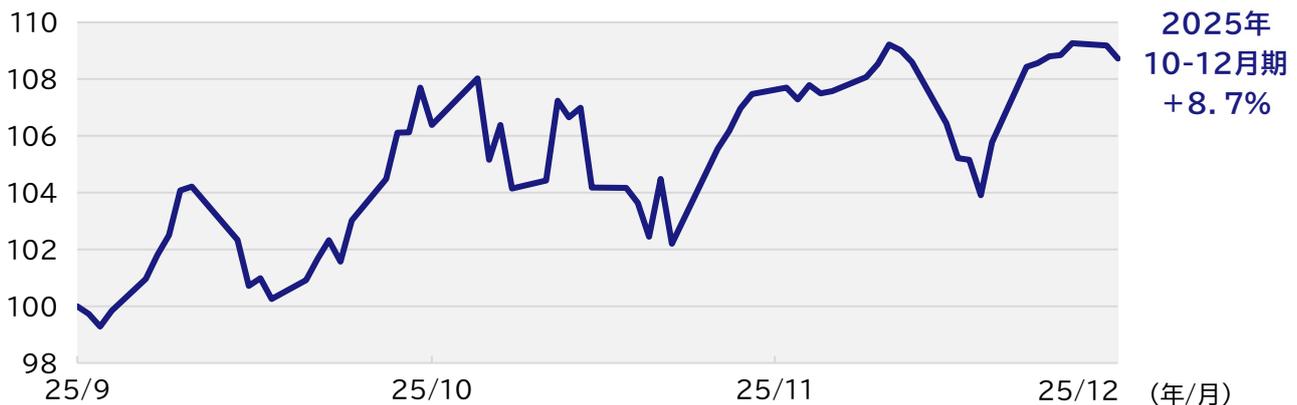
高成長株における銘柄選択が奏功

セクター別では、ヘルスケアが全体をけん引したほか、コミュニケーション・サービスも上昇しました。一方で公益事業や不動産、生活必需品などは下落しました。

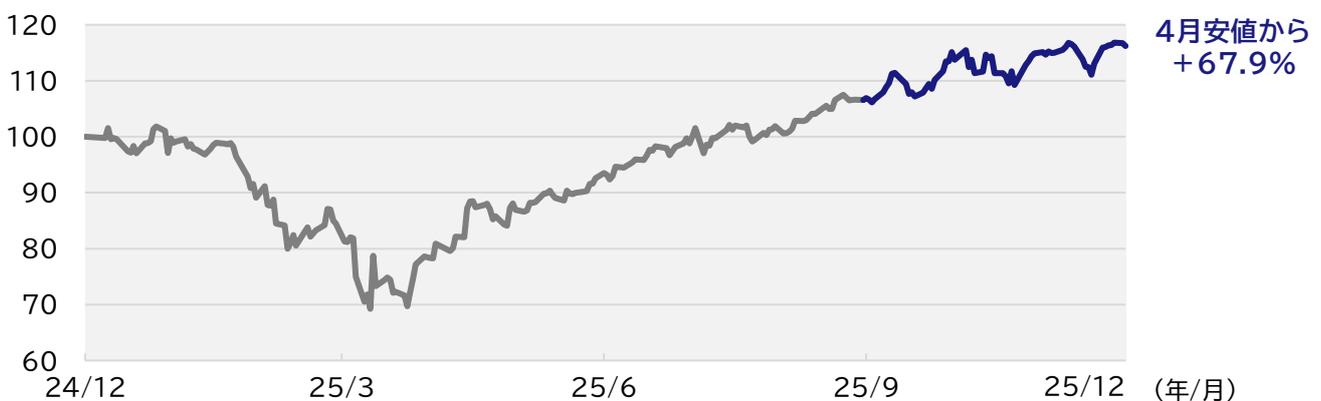
こうした市場環境のなか、当期は銘柄選択効果が働き堅調なパフォーマンスとなりました。特に工業やテクノロジー、一般消費財・サービスといった高成長株への投資がプラスに寄与しました。

マザーファンドのパフォーマンス

2025年10-12月期



2025年



*各ファンドが投資対象とする「フィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンド(適格機関投資家専用)」の主要投資対象である「フィデリティ・ブルーチップ・グロース・マザーファンド受益証券」を指します。

※期間:【2025年10-12月期】2025年9月30日～2025年12月30日(日次)、2025年9月30日を100として指数化
【2025年】2024年12月30日～2025年12月30日(日次)、2024年12月30日を100として指数化
出所:フィデリティ投信のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報または運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

投資方針

今後の見通しと注目セクター

慎重ながらも楽観的な見方を継続

市場を取り巻くマクロ環境には追加関税や金利、インフレ、地政学的リスク、経済成長減速といった株式の逆風となりうる材料が引き続き散見されます。

ただし、株式市場は「ウォール・オブ・ウォーリー(尽きない懸念材料)」のなかにあっても底堅く推移しており、フィデリティの運用チームは足もとの株式の上昇が継続する可能性を、慎重ながらも楽観的にみています。

情報技術やコミュニケーション・サービスに注目

フィデリティの運用チームが注目するセクターは、まず情報技術です。2025年末時点で資産の多くを配分し、AI分野の成長を中核テーマとして位置づけています。マクロ環境には不透明感が残るものの、AIを軸とした長期的な成長トレンドを予想しているほか、AI関連支出をけん引してきたクラウドサービス企業において投資収益の改善がみられることも追い風と考えています。

2025年10-12月期は、AIバブル懸念や企業固有要因による株価調整を受けた局面をとらえ、半導体関連のエクスポージャーを高めました。

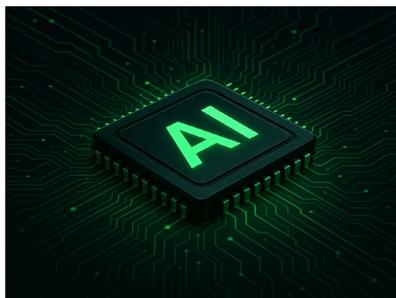
その他、2026年に注目するセクターは以下の通りです。コミュニケーション・サービスは、過去数年にわたるAIへの継続的な投資と、さまざまな用途での活用拡大が成長ドライバーであり、長期的にポジティブな見通しを支える柱の一つです。

一般消費財・サービスでは、Eコマースや住宅関連などに着目しています。住宅市場では、堅調な需要と金利低下が市場の回復をうながすとみています。

また、健康とフィットネスを重視する消費者志向の高まりを受け、アスレジャー(スポーツウェアと日常着を融合したファッション)やスニーカー分野を中心にアパレル企業の成長ポテンシャルを評価しています。

フィデリティの運用チームは今後も、AIを活用して革新的な取り組みを行う企業に着目し、投資を行います。

注目セクターの一例



① 情報技術

半導体はAIを支える基盤として不可欠であり、各ファンドでは引き続き同関連企業をオーバーウェイトとしています。

特にAIサーバーやデータセンター、ネットワーク機器など、AI活用拡大にともなって需要が見込まれる分野に強みを持つ企業を重視しています。

AIの普及が進むなかで、半導体分野は構造的に成長しやすい領域とされており、同分野は今後も重要な投資テーマとして位置づけています。

② 一般消費財・サービス

Eコマース関連、住宅関連企業、独自の成長力を持つ企業群など幅広い領域に分散投資を行っています。

デジタル消費の拡大や堅調な住宅需要など、景気に左右される局面はあるものの、中長期的に成長が見込まれる企業を中心に選定しています。



※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、市場環境の変動等により予告なく変更する場合があります。
また、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

投資方針

セクター別の注目銘柄

半導体・AI関連では、エヌビディアやマーベル・テクノロジー、TSMCに注目

半導体・AI関連では、エヌビディアやマーベル・テクノロジー、台湾積体回路製造(TSMC)などに注目しています。エヌビディアは生成AIモデル向けのシステムを提供する中核的サプライヤーであり、AI関連技術やサービスが広がるなかで中心的な役割を担っている点を評価しています。

マーベル・テクノロジーは、主要クラウド企業による生成AI向けの独自チップ開発を支えるソリューションを提供しており、データセンターの高度化という構造的テーマに沿ったポジションにあると考えています。

さらに、マイクロン・テクノロジーとブロードコムも、AIのインフラを支える領域で強みを持ち、需要サイクルの回復などが追い風になるとみています。

コミュニケーション・サービスでは、アルファベットなどに注目

コミュニケーション・サービスでは、アルファベットやメタ・プラットフォームズなどに注目しています。両社はAI技術への継続的な投資を背景に、検索や広告

配信、コンテンツ生成、プラットフォーム運営など多様に活用例を広げており、収益機会の拡大が期待できます。ユーザー規模とデータ資産、開発力の三位一体による競争優位性が長期的な成長見通しを支えると考えています。

その他では、アマゾン・ドット・コムやロウズに注目

一般消費材・サービスでは、アマゾン・ドット・コムに注目しています。Eコマースとクラウドの両輪によるスケールメリットや物流・在庫最適化、広告ビジネスの伸長など、複数の成長ドライバーが相互に強化し合うビジネスモデルを評価しています。

住宅関連では、住環境への投資や住まいのアップグレード需要というテーマに着目し、ホームセンターを展開するロウズや家具・インテリア企業のRH、家具・インテリアのオンライン販売を手掛けるウェイフェアといった銘柄に注目しています。住宅ローン金利の低下や住宅価格の安定化が進む局面では、住関連支出の回復が見込まれると考えています。

注目銘柄

半導体 注目銘柄

台湾積体回路製造(TSMC)
(組入比率:1.1%)

- 半導体の設計を行わず、製造に特化したファウンドリ企業です。顧客から受け取った設計データをもとに、最先端プロセスで半導体チップを製造しています。
- AI向けの最先端チップにおいて世界最大の製造能力を有し、技術優位性と大手顧客(エヌビディア等)との強固な関係を背景に、高いシェアを維持しています。



Eコマース 注目銘柄

ウェイフェア
(組入比率:0.1%)

- 家具・インテリアを中心に多様な生活用品を扱う米国発のEC企業です。豊富な商品ラインアップと独自の物流網による迅速配送が強みです。
- 足元では割安なバリュエーションにあり、米国の利下げが進めば住宅取引の回復にともない、家具関連消費への追い風が期待されます。



※2025年12月末時点

※組入比率は組入株式評価額に対する割合です。

※個別銘柄に言及していますが、売買を推奨するものではありません。また、各ファンドへの組入れまたは保有の継続を示唆・保証するものではありません。

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、市場環境の変動等により予告なく変更する場合があります。また、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

運用実績

フィデリティ・ブルーチップ・グロース・マザーファンドの組入上位銘柄

	銘柄名	国・地域	業種	銘柄概要	比率 (%)
1	エヌビディア	米国	情報技術	半導体大手。コンピューターの画像描写や演算を行う画像処理半導体(GPU)等を開発する。AIをサポートする技術において、競争を引き離す存在。	9.8
2	アップル	米国	情報技術	IT機器大手。スマートフォン「iPhone」やパソコン「Mac」などのデジタル製品をはじめ、関連するソフトウェア等を開発・販売する。圧倒的なブランド価値を背景に、強固な顧客基盤を持つことが強み。	9.7
3	アルファベット (クラスA)	米国	コミュニケーション・サービス	大手インターネット関連企業。検索サイト「Google」を中心に多様なサービスを展開。AI事業やクラウドサービス「グーグルクラウド」等の成長期待も高い。	8.6
4	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	オンライン小売り大手。小売りウェブサイト「Amazon」を世界中で展開するほか、サブスクリプション(継続課金)サービス「Amazonプライム」や電子書籍「kindle」等も提供。クラウドプラットフォーム「AWS」が成長をけん引。	8.4
5	マイクロソフト	米国	情報技術	ソフトウェア大手。「Windows」や「Office」など圧倒的な世界シェアを誇る商品やサービスを多数展開し、あらゆる事業で高い収益性を誇る。クラウドサービス「アジュール」が成長をけん引。	7.8
6	メタ・プラットフォームズ	米国	コミュニケーション・サービス	SNS大手。「Facebook」や「Instagram」、「WhatsApp」などのサービスを開発・提供する。AIを活用したデジタル広告の高度化や次世代サービス等が成長をけん引。	4.8
7	ブロードコム	米国	情報技術	通信半導体大手。データ通信網向け半導体や、企業向けインフラソフトウェアを開発・提供する。AI向け半導体の需要拡大に期待。	3.8
8	イーライリリー	米国	ヘルスケア	医薬品大手。病院等で処方される医薬品を中心に手掛けるグローバルな研究開発型製薬会社で、インスリンの製剤化のパイオニアであるなど、研究開発力に強みを持つ。糖尿病治療薬および肥満症治療薬が成長をけん引。	3.0
9	ネットフリックス	米国	コミュニケーション・サービス	オンラインストリーミング(インターネットを通じて動画や音声をリアルタイムで再生する技術)サービス大手。世界中で映像ストリーミング配信事業を展開している。映画やテレビ作品の配信だけでなく、オリジナル作品の制作・配信等も手掛ける。	2.4
10	アップラビン	米国	情報技術	広告テクノロジー企業。モバイルアプリに特化したプラットフォームを提供する。AIを活用した高度な技術により、利用者が関心を持つコンテンツを的確に配信し、広告主のニーズに応える仕組みを構築している。	2.0

株式等組入銘柄数: 210銘柄

※2025年12月末時点

※国・地域はフィデリティ投信の基準、業種はGICS(世界産業分類基準)に基づいています。

※組入比率は組入株式評価額に対する割合です。

※上記は個別銘柄の売買を推奨するものではありません。また、各ファンドへの組入れまたは保有の継続を示唆・保証するものではありません。

出所: フィデリティ投信のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の運用実績であり、市場環境の変動等により予告なく変更する場合があります。また、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

運用実績

パフォーマンス

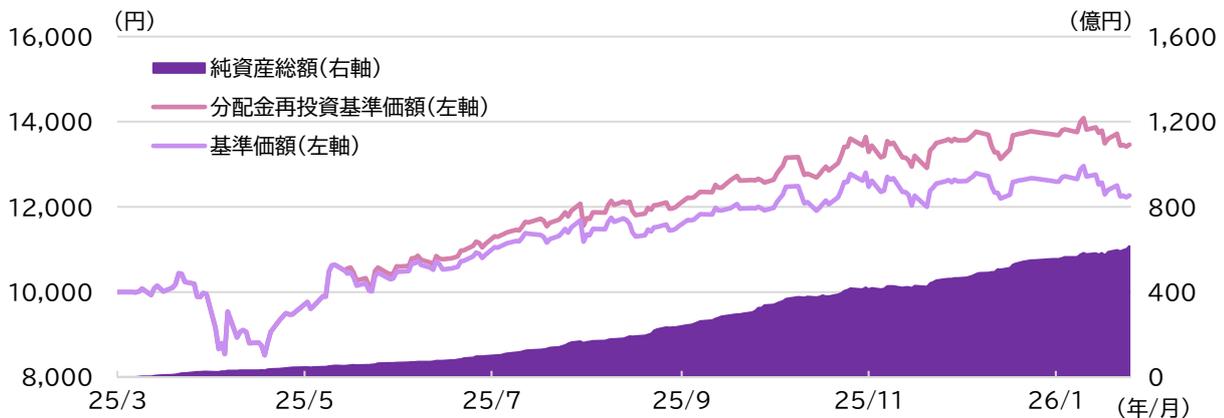
<成長型>



<隔月決算・予想分配金提示型>



<毎月決算・予想分配金提示型>



※期間:<成長型><隔月決算・予想分配金提示型>2023年12月11日(設定日前営業日)~2026年1月30日(日次)

<毎月決算・予想分配金提示型>2025年3月6日(設定日前営業日)~2026年1月30日(日次)

※基準価額は設定日前営業日を10,000円として計算しています。

※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後の価額です。換金時の費用・税金などは考慮していません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したとみなして計算した理論上のものであり、実際の基準価額とは異なります。

※<成長型>は2026年1月30日時点で分配実績はありません。

※上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

01 主として、米国を中心に世界(日本を含みます。)の金融商品取引所に上場(これに準ずると委託会社が判断したものを含みます。*1)されている優良企業の株式に実質的に投資を行い、長期的な値上がり益を獲得することをめざします。

*1 米国の店頭市場登録の銘柄を組入れることがあります。

✦以下の投資信託証券を投資対象とするファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。

- フィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンド(適格機関投資家専用)*2 (以下「ブルーチップファンド」といいます。)
*2「フィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンド(適格機関投資家専用)」は「フィデリティ・ブルーチップ・グロース・マザーファンド受益証券」を主要投資対象とするファミリーファンド方式により運用を行います。
- DIAMマネーマザーファンド受益証券

✦各投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向等を勘案して決定するものとし、ブルーチップファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。

✦実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

02 ブルーチップファンドの運用は、フィデリティ投信株式会社*3が行います。

✦投資対象ファンドであるフィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンド(適格機関投資家専用)の運用会社であるフィデリティ投信株式会社*3は、運用の指図に関する権限の一部(株式等の投資判断の一部)をFIAM LLC*4に委託します。

*3 フィデリティ投信株式会社は、独立系資産運用グループのフィデリティ・インターナショナルの一員です。フィデリティ・インターナショナルはフィデリティ・インベスメンツの国際投資部門として1969年に設立しました。1980年に米国の組織から独立し、現在は経営陣と創業家が主要株主となっています。

*4 FIAM LLCは、企業年金、公的年金、基金、財団、中央銀行、政府系ファンド、保険会社を含む世界各国の機関投資家を対象とした資産運用サービスに特化しています。FIAM LLCは米国を本拠地とするFMR LLCの子会社です。なお、FIAM LLC及びFMR LLCはフィデリティ・インベスメンツの一員です。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

03 「成長型」「隔月決算・予想分配金提示型」「毎月決算・予想分配金提示型」の3つのファンドからご選択いただけます。

成長型	原則として、毎年5月および11月の各20日(休業日の場合は翌営業日)の決算日に収益の分配を行います。
隔月決算・ 予想分配金提示型	原則として、毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各20日(休業日の場合は翌営業日)の決算日に収益の分配を行います。
毎月決算・ 予想分配金提示型	毎月決算を行い、毎決算期末の前営業日の基準価額に応じて分配を行います。

<隔月決算・予想分配金提示型の分配金について>

各決算期末の前営業日の基準価額*に応じて、原則として、以下の金額の分配をめざします。

*基準価額は、1万口当たりとし、ファンド設定来の支払済み分配金(税引前)を含みません。

各決算期末の前営業日の基準価額	予想分配金額(1万口当たり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

<毎月決算・予想分配金提示型の分配金について>

各決算期末の前営業日の基準価額*に応じて、原則として、以下の金額の分配をめざします。

*基準価額は、1万口当たりとし、ファンド設定来の支払済み分配金(税引前)を含みません。

各決算期末の前営業日の基準価額	予想分配金額(1万口当たり、税引前)
10,500円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
10,500円以上13,000円未満	120円
13,000円以上15,500円未満	150円
15,500円以上18,000円未満	180円
18,000円以上20,500円未満	210円
20,500円以上	240円

※分配対象額が少額の場合、各決算期末の前営業日から当該決算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記と異なる分配金額となることや分配を行わないことがあります。

※各決算期末の前営業日の基準価額水準に応じて、予想分配金額は変動します。基準価額が上記の一定水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた予想分配金額が次期決算以降も継続されるというものではありません。

※分配を行うことにより基準価額は下落します。このため、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。また、基準価額が下落し続ける場面においても、上記の表に基づく分配をめざします。この場合、分配を行うことにより基準価額がさらに下落します。

※上記の表は、基準価額水準における予想分配金額を示すことを目的としています。分配金額は予想に基づくものであり、将来の運用の成果を示唆および保証するものではありません。

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配を約束するものではありません。また、分配金が支払われない場合もあります。

※投資者ごとに購入金額が異なるため、基準価額が10,000円を超えて支払われた分配金であっても、分配金の一部または全部が実質的に元本の払い戻しに相当する場合があります。

※投資信託において分配金を受け取ることは、将来、運用する資金の減少につながります。その結果、分配後に市況が下落した場合には、実質的に利益確定や損失回避などの効果が期待されますが、逆に上昇した場合には、運用の複利効果が抑制されることにつながります。また分配金額が多いほど、実質的に利益確定や損失回避などの効果が複利効果の抑制に大きく影響します。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて値動きのある有価証券等(実質的に投資する外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

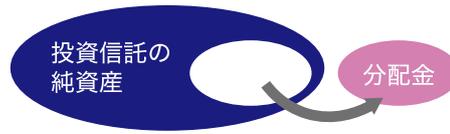
基準価額の変動要因

<p>株価変動リスク</p>	<p>株式の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式市場や各ファンドが実質的に投資する企業の株価が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。また、各ファンドは、実質的に個別銘柄の選択による投資を行うため、株式市場全体の動向から乖離することがあり、株式市場が上昇する場合でも基準価額は下落する場合があります。</p>
<p>為替変動リスク</p>	<p>為替相場は、各国の政治情勢、経済状況等の様々な要因により変動し、外貨建資産の円換算価格に影響をおよぼします。各ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には、実質保有外貨建資産が現地通貨ベースで値上がりした場合でも基準価額が下落する可能性があります。</p>
<p>信用リスク</p>	<p>有価証券等の価格は、その発行体に債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。各ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、また、こうした状況に陥ると予想される場合、信用格付けが格下げされた場合等には、株式の価格が下落したり、その価値がなくなることがあり、基準価額が下落する要因となります。</p>
<p>流動性リスク</p>	<p>有価証券等を売却または取得する際に市場規模や取引量、取引規制等により、その取引価格が影響を受ける場合があります。一般に市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることがあり、基準価額に影響をおよぼす要因となります。</p>
<p>カントリーリスク</p>	<p>投資対象国・地域の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制、また取引規制等の要因によって資産価格や通貨価値が大きく変動する場合があります。海外に投資する場合には、これらの影響を受け、基準価額が下落する要因となります。</p>
<p>特定の投資信託証券に投資するリスク</p>	<p>各ファンドが実質的に組入れる投資信託証券における運用会社の運用の巧拙が、各ファンドの運用成果に大きな影響をおよぼします。</p>

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

- ◆ 投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ

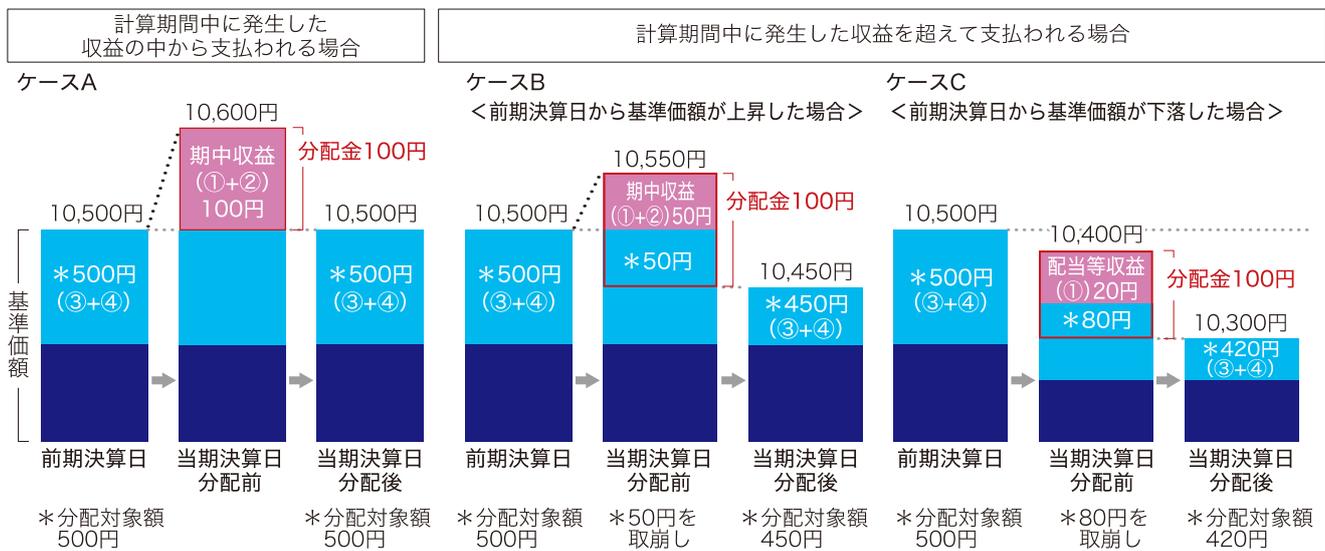


- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配金額と基準価額の関係(イメージ)

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

①配当等収益(経費控除後)、②有価証券売買益・評価益(経費控除後)、③分配準備積立金、④収益調整金



上図のそれぞれのケースにおいて、前期決算日から当期決算日まで保有した場合の損益を見ると、次の通りとなります。

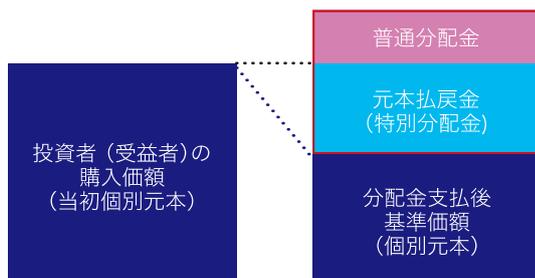
ケースA: 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円=100円
 ケースB: 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲50円=50円
 ケースC: 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲200円=▲100円

■ A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

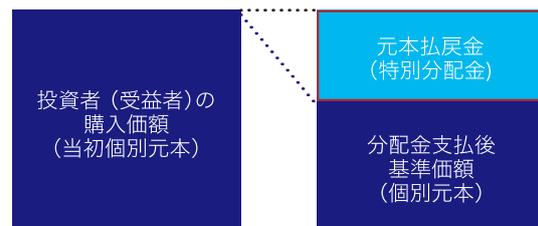
- ◆ 投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は、非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日に該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	投資を行う投資信託証券の取得申込みの停止、投資を行った投資信託証券の換金停止、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	<成長型> <隔月決算・予想分配金提示型> 無期限(2023年12月12日設定) <毎月決算・予想分配金提示型> 無期限(2025年3月7日設定)
繰上償還	各ファンドが主要投資対象とするブルーチップファンドが存続しないこととなる場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)させます。各ファンドにおいて純資産総額が30億円を下回ることとなった場合等には、償還することがあります。
決算日	<成長型> 毎年5月、11月の各20日(休業日の場合は翌営業日) <隔月決算・予想分配金提示型> 毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各20日(休業日の場合は翌営業日) <毎月決算・予想分配金提示型> 毎月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	<成長型> 年2回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 <隔月決算・予想分配金提示型> 年6回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 <毎月決算・予想分配金提示型> 年12回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。 詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	各ファンドは課税上は株式投資信託として取り扱われます。原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 <成長型> <隔月決算・予想分配金提示型> NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。 <毎月決算・予想分配金提示型> NISAの対象ではありません。 ※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更となる場合があります。
スイッチング	販売会社が定める単位にて、ファンド間で乗り換え(スイッチング)が可能です。 ※販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。くわしくは販売会社にお問い合わせください。

詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入時	購入時手数料	購入価額に 3.3%(税抜3.0%) を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。購入時手数料は、商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価として、販売会社に支払われます。 ※くわしくは販売会社にお問い合わせください。													
	スイッチング手数料	スイッチング時の購入価額に 3.3%(税抜3.0%) を上限として、販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。 ※スイッチングの際には、換金時と同様に税金がかかります。くわしくは販売会社にお問い合わせください。													
ご換金時	換金時手数料	ありません。													
	信託財産留保額	ありません。													
保有期間中 (信託財産から間接的にご負担いただきます。)	運用管理費用 (信託報酬)	各ファンド	ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.078%(税抜0.98%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>内訳(税抜)</th> <th>主な役務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>年率0.31%</td> <td>信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年率0.65%</td> <td>購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年率0.02%</td> <td>運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価</td> </tr> </tbody> </table>	支払先	内訳(税抜)	主な役務	委託会社	年率0.31%	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価	販売会社	年率0.65%	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価	受託会社	年率0.02%	運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
			支払先	内訳(税抜)	主な役務										
			委託会社	年率0.31%	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価										
	販売会社	年率0.65%	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価												
受託会社	年率0.02%	運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価													
投資対象とする 国内籍私募投資信託	ブルーチップファンドの純資産総額に対して年率0.649%(税抜0.59%)														
実質的な負担	各ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.727%(税抜1.57%) (概算) ※上記は各ファンドが投資対象とするブルーチップファンドを高位に組入れた状態を想定しています。														
その他の 費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査費用等が信託財産から支払われます。 ※投資対象とするブルーチップファンドにおいては、上記以外にもその他の費用・手数料等が別途かかる場合があります。 ※その他の費用・手数料については、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。														

※上記手数料等の合計額等については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。
※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

●印は取扱いファンドを示しています。○印は協会への加入を意味します。

2026年2月27日時点

成長型	予想月 提示分 型配 算金・	予想月 提示分 型配 算金・	商号	登録番号等	日本証券 業協会	一般社団 法人日本 投資顧問 業協会	一般社団 法人金融 先物取引 業協会	一般社団 法人第二 種金融商 品取引業 協会
●	●		株式会社北都銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第10号	○			
●	●		株式会社荘内銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第6号	○			
●			株式会社三十三銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第16号	○			
●			株式会社滋賀銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第11号	○		○	
●	●		株式会社池田泉州銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第6号	○		○	
●	●		株式会社中国銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号	○		○	
●	●		株式会社山口銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第6号	○		○	
●	●		株式会社筑邦銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第5号	○			
●	●		株式会社北九州銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第117号	○		○	
●	●		株式会社きらやか銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第15号	○			
●	●		株式会社神奈川銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第55号	○			
●	●		株式会社富山第一銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第7号	○			
●	●		株式会社名古屋銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第19号	○			
●	●		株式会社もみじ銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第12号	○		○	
●	●		株式会社徳島大正銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第10号	○			
●			永和証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第5号	○			
●	●		株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
●	●		極東証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第65号	○			○
●	●		あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
●	●		島大証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長(金商)第6号	○			
●		●	みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○
●			めぶき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1771号	○			
●	●		むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号	○			○
●	●		中銀証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第6号	○			○
●	●		楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
●	●		東武証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第120号	○			
●	●		西日本シティT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第75号	○			
●	●		浜銀T証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1977号	○			
●	●		水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第181号	○	○		
●	●	●	三豊証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長(金商)第7号	○			
●	●	●	明和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第185号	○			

(原則、金融機関コード順)

●その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

指数の著作権等

- ©2026 Morningstar. All Rights Reserved.ここに含まれる情報は、(1)Morningstarおよび/またはそのコンテンツ提供者の専有財産であり、(2)複製または配布は禁止されており、また(3)正確性、完全性及び適時性のいずれも保証するものではなく、また(4)投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者は、この情報の使用により生じるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。
- 世界産業分類基準(GICS)は、MSCI Inc(. MSCI)およびStandard & Poor's Financial Services LLC(S&P)により開発された、MSCIおよびS&Pの独占的権利およびサービスマークであり、アセットマネジメントOne株式会社に対し、その使用が許諾されたものです。MSCI、S&P、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類(並びにこれらの使用から得られる結果)に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性について一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、MSCI、S&P、それらの関係会社、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害(逸失利益を含みます。)につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。

投資信託ご購入の注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡す投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください、ご自身でご判断ください。
- 各ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入る有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

委託会社その他関係法人の概要

委託会社	アセットマネジメントOne株式会社	信託財産の運用指図等を行います。
受託会社	みずほ信託銀行株式会社	信託財産の保管・管理業務等を行います。
販売会社	募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書(目論見書)・運用報告書の交付、収益分配金の再投資、収益分配金、一部解約金および償還金の支払いに関する事務等を行います。	

照会先

アセットマネジメントOne株式会社



コールセンター **0120-104-694**
受付時間: 営業日の午前9時~午後5時



ホームページアドレス
<https://www.am-one.co.jp/>